

2024 年度日本財団助成事業

「意思決定支援を含む権利擁護を進めるための
中核機関の役割と実務研修」事業 報告書

2025（令和6）年 6月

一般社団法人 全国権利擁護支援ネットワーク

はじめに

本事業は、「日本財団 2024 年度助成事業」において実施した、「成年後見制度利用促進法における中核機関の役割と実務研修」の開催事業の記録です。

成年後見制度利用促進基本計画に書いてある中核機関は、令和 6 年度末で、全国で 74 % の設置状況になっています。かなりの市町村に設置されている状況になりました。それゆえに、設置が目的になっている中核機関と地域になかで十分に役割を果たしている中核機関との格差が大きくなっているのが現状のようです。この研修は、中核機関は、成年後見制度だけの機関ではないこと、中核機関設置の意味は、地域共生社会の実現に向けて、権利擁護支援の視点をもった人材育成をして、誰もが暮らしやすいまちづくりをすることが目的であるということを周知するものです。

そして、当団体は、全国で先進的に活躍している団体のネットワークです。現場のことが解って活動している強みを生かし、支援者も研修企画に関わることで、タイムリーな成長ができるという研修を展開できます。

人材不足が慢性的な状態になっている中、これからの研修の形式、生活様式、仕事の仕方を真剣に考えていく必要があると痛切に感じています。

本事業の成果が地域の真の中核機関の設立と権利擁護支援センターの拡大に具体的に役立つことになれば幸いです。

2025（令和 7）年 6 月

一般社団法人 全国権利擁護支援ネットワーク

《目 次》

I. 研修概要 と アンケート	1
1. 10月 31日 北海道 函館市	2
2. 11月 22日 新潟県 上越市	8
3. 11月 27日 滋賀県 甲賀市	18
4. 12月 4日 山口県 萩市	30
II. 検討委員会	38
1. 委員会概要	39
2. 委員会報告	40
3. 全日程を終えての振り返り	49
(資料) 研修配布資料	50
1. 10月 31日 北海道 函館市	
2. 11月 22日 新潟県 上越市	
3. 11月 27日 滋賀県 甲賀市	
4. 12月 4日 山口県 萩市	

I、研修概要とアンケート

(1) 10月31日 北海道 函館市

全国権利擁護支援ネットワーク 2024 年度
「意思決定支援を含む権利擁護を進めるための中核機関の役割と実務研修」
開催報告書

1. 日 時 令和6年10月31日(水) 13:30～17:30

2. 会 場 函館市亀田交流プラザ大会議室

3. 参加者数 会場18名、オンライン39名

4. プログラム

(1) 基調講演

『権利擁護支援と国の動向』

講師： 佐藤 彰一さん (全国権利擁護支援ネットワーク顧問)

(2) 『渡島圏域の権利擁護支援の現状と取り組み』

報告者：窪田 良弘さん (一般社団法人 徳風草)

湯浅 弥さん (特定非営利活動法人 小呂野)

(3) 鼎談

単身者・身寄りのない方への支援の実情と今後の展望

登壇者：佐藤 彰一さん (全国権利擁護支援ネットワーク顧問)

山口 正之さん (全国権利擁護支援ネットワーク共同代表)

今井 友乃さん (全国権利擁護支援ネットワーク事務局長)

5. 報 告

意思決定支援、権利擁護について、厚生労働省ガイドラインや諸外国の状況にてらしてご講演頂いた。また、参加者アンケートより、能力存在推定を念頭に支援していくことの重要性を感じたとの感想があった。

徳風草窪田弁護士、小呂野湯浅氏から、特に金銭的な余裕がなく、身寄りがない方への権利擁護支援の実践報告がなされた。圏域内で制度の狭間に対応する取り組みがなされていることに驚きの声も聞かれた。

佐藤顧問、山口共同代表、今井事務局長から、身寄りがない方への支援の現状と民間の身元保証サービスによる懸念点などが話された。

本研修会において、意思決定支援の重要性はもちろん、身寄りのない方の問題について、北海道、身近な圏域でも同様にある問題と認識し、考えるきっかけになったとの感想が寄せられた。

作成者：駒田 拓朗

意思決定支援を含む権利擁護を進めるための中核機関の役割と実務研修
～単身者・身寄りのない方への権利擁護支援を考える～

(2024年10月31日・北海道函館市) アンケート集計結果

回答数：18

1) (A) お住まいまたは所属先の所在地

北海道	16名（函館市3名、江差町3名、苫小牧市2名、上ノ国町2名、苫小牧市2名、七飯町、喜茂別町、鹿部町、伊達市、札幌市、木古内町 各1名）
愛知県	1名（一宮市）
宮崎県	1名

(B) 職種（所属） ※複数回答可

1、自治体	1名
2、社会福祉協議会	12名
3、福祉職（高齢）	1名
4、福祉職（障害）	1名
5、法律職	3名
6、会員団体	3名
7、その他	3名（NPO法人・独立型社会福祉士事務所） （成年後見支援センター、法人後見 各1名）

2) 本研修は何でお知りになりましたか？ ※複数回答可

1、チラシ	2名
2、ホームページ	4名
3、職場・関係機関	9名
4、友人・知人	1名
5、その他	2名

3) 基調講演『権利擁護支援と国の動向』について、ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	14名
2、良かった	3名
3、よく分からなかった	0名

※無記入 1名

1、「大変良かった」

・分かりやすかったです。

- ・権利擁護支援に正解はない、悩むことが必要という言葉に心が救われました。
- ・最終スライドでお話された当たり前のように接していくという言葉、はっとさせられると共にぐっと心に響きました。
- ・意思決定支援とは何かということがよく分かりました。また、意思決定支援に対する向き合い方を改める良い機会となりました。
- ・意思決定支援の基本についてはりかいできるものの、私自身重度の知的障害のある一人娘の意思すらよく分からないことが多々ある現実、情けなく思う毎日を過ごしています。

「当たり外れ」については、当地域についても実感しており、①施策の立案・実行力、②民事法等の法律知識を有する人材の確保、が体制整備と持続可能な運営に鍵になると認識しています。

- ・能力存在推定の大事さがよく伝わり、大変参考になった。
- ・意思決定支援について改めて考えさせられました。ありがとうございました。来週から今回の内容を日々の業務に活かしていきます。

意思決定支援の倫理と担い手についても、一人ではできないので工夫する必要性に気づきました。

2、「良かった」

- ・意思決定支援というものが、正しく理解されたいないこと、権利擁護の理解もされていない現状について、知ることができました。
- ・お話を聞いてすぐに理解が追い付かない部分もあったが、意思決定支援という言葉にも大きな幅があり、立場や役割によって解釈が違ふことは理解していたものの、「支援者に能力がないから代行決定を行う」という言葉は印象に残った。

無記入

- ・権利擁護、意思決定に対する考え方を再認識することができた。津久井やまゆりのスライドから、支援の在り方を深めて考える機会となりました。

4)『渡島圏域の権利擁護支援の現状と取り組み』について、ご意見・ご感想

1、大変良かった	14名
2、良かった	3名
3、よく分からなかった	0名

※無回答 1名

1、「大変良かった」

- ・苫小牧市でもまさにおひとり様問題が大きくなっています。補助金や寄付金の活用、ファンドレイジングなど考えは出てくるのですが、具体的にどうするかという方法は

まだ見えてこないところでした。湯浅さんの講演が学びになりました。

- ・任意契約に対応する地域の新しい仕組みが動き始めたことを興味深く聞けました。
- ・今まで「こういう機関が欲しい」と思っていたことを実施されていることに感心しました。自分のところでも将来的に後見事業や制度のはざまにいる方々への支援に関する事業を行いたいと思っているので、とても参考になりました。函館市社協で日自の事業をやっていないことを知って驚きました。
- ・身寄りのない人が増えており、これから必要な支援だと思います。町としてもどんな取り組みや支援ができるのか考えていかなければと改めて感じました。
- ・熱い思いを感じました。考え、感じた時間でした。
- ・函館市における取組を学ぶことができました。資金調達等の問題を克服する方法を自分自身も考えていきたいと思いました。
- ・「悪い奴ら」については、当市の社協が後見を務めている被後見人の亡父も被害に遭っており、これらの被害防止を図るためにも、社協において任意後見契約や生前・死後事務委任契約を受任できる体制を早急に進めることとしています。
- ・「お金は後から付いてくる」という言葉が大変印象に残った。
- ・“お金は後から付いてくる”とは言うものの、任意代理（身元保証）委任契約を監督付きで財源的な保証なく始めようと思われたこと、また、社会福祉士と弁護士がタッグを組んで取り組む環境醸成をされていたことはすごいと思った。
- ・解決策の具体的な仕組みづくりもあり、自分自身の中で整理ができたと思いました。保険の問題もあると改めて感じました。

経済的に貧困な方の対策が重要であり、なかなか解決策がない現状です。地域の背景にある現状を見て行おうと感じました。

2、「良かった」

- ・支援に対して…専門性（職）に対する評価、ボランティアではない。→それに見合う仕事をするのが求められている。

函館市…日常生活自立支援事業が制度として実施ほとんどない。これに代わる支援はどのようにしているのか？

5) 鼎談『身寄りのない方への支援の実状と今後の展望』について、ご意見・ご感想

1、大変良かった	11名
2、良かった	2名
3、よく分からなかった	1名

※無回答 4名

1、「大変良かった」

- ・具体的な内容もあり、勉強になりました。ありがとうございました。

- ・ 菌に衣着せぬ本音での鼎談で非常に分かりやすかった。”悪い奴ら“が手を出さない地域もあるとのことで、サービスや仕組みだけでなく地域づくりも大事だと感じたし、行政も一緒に考えてもらう為に行政計画に盛り込んでいくことも大切な視点だと感じた。
- ・ ざっくばらんに話されていて、大変参考になった。
- ・ 雑談ベースの会話、興味深く、そして楽しく拝聴させていただきました。いつかご一緒に将来展望について語り合う機会が来ることを楽しみにしています。
- ・ 身寄りがない人の支援についてと、悪質な身元保証業者も実情などを知ることができました。
- ・ “意味のある活動”を作り上げていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 現実や実際の話聞いて良かったです。法人で任意後見などの活動を広げていきたいと思います。これからも沢山参考にさせてほしいです。
- ・ 身元保証の問題にも地域性があることが理解できました。他の市町の状況も参考になりました。

2、「良かった」

- ・ 様々な課題があることが分かりました。勉強になりました。
- ・ 大きな街での内容？といった感じで、小地域から見ると現実味が少なく感じました。身元保証の話が多かったですが、道南の田舎にはそういう会社がない所がほとんどです。行政や社協と鼎談された皆様のつながりはないのでしょうか？そういう所の実状も聞きたかったです。中核機関をやるのもお金を出すのも行政や社協が多いので。（特に道南の）あと、自分も「おひとり様」なので、事務局長の「世間（社会？）に迷惑かけるじゃないか」の言葉にはとてもショックを受けました。（言葉のチョイスに…）

3、「よく分からなかった」

- ・ 名古屋はお金持ちがたくさんいて、萩市には少ないということ以外は、よく分かりませんでした。

無記入

- ・ 時間の都合で参加できませんでした。別の機会でもた山口様、今井様のお話を拝聴させて頂けることを楽しみにしております。

(2) 11月22日 新潟県 上越市

全国権利擁護支援ネットワーク 2024 年度
「意思決定支援を含む権利擁護を進めるための中核機関の役割と実務研修」
開催報告書

1. 日 時 令和6年11月22日（水） 13:30～16:30

2. 会 場 上越市民プラザ
第3会議室

3. 参加者数 90名

4. プログラム

(1) 基調講演

『成年後見制度の動向と中核機関の役割』

講師： 上山 泰さん（新潟大学法学部教授）

(2) パネルディスカッション

『地域の権利擁護支援の中核であるために』

パネリスト：片岡 敏明さん（上越市社会福祉協議会）

竹之内 拓馬さん（長岡市社会福祉協議会）

今井 友乃さん（知多地域権利擁護支援センター理事長/
全国権利擁護支援ネットワーク事務局長）

コーディネーター：寺口 祐司さん（新潟県社会福祉協議会）

コメンテーター：上山 泰さん

5. 報 告

11月後半の会場が汗ばむほどの熱気に包まれました。上山先生の基調講演では成年後見制度が大きく変わろうとしている現状をお話いただき、中核機関が今後重要な役割を果たすことになることを皆で共有できました。県内の中核機関の活動を理解し、そしてずっと先を走ってこられた今井さんのお話には多くの福祉関係者が勇気をもらいました。上越で開催できましたことに心よりお礼を申し上げます。

作成者：上越市社会福祉協議会
伊崎道子

意思決定支援を含む権利擁護を進めるための中核機関の役割と実務研修
 (2024年11月22日・新潟県上越市) アンケート集計結果
 回答数：76

1) (A) お住まいまたは所属先の所在地

新潟県	69名(上越市56名、妙高市5名、魚沼市3名、柏崎市2名、小千谷市1名、南魚沼市1名)
長野県	6名(長野市2名、中野市2名、飯綱町1名)

※無記入 都道府県2名、市区町村4名

(B) 職種(所属) ※複数回答可

1、自治体	10名
2、社会福祉協議会	12名
3、福祉職(高齢)	24名
4、福祉職(障害)	16名
5、法律職	6名
6、会員団体	2名
7、その他	14名(金融機関3名、医療関係3名、事務職等)

※無記入1名

2) 本研修は何でお知りになりましたか? ※複数回答可

1、チラシ	14名
2、ホームページ	3名
3、職場・関係機関	57名
4、友人・知人	2名
5、その他	1名

3) 基調講演『成年後見制度の動向と中核機関の役割』について、ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	44名
2、良かった	30名
3、よく分からなかった	1名

※無記入 5名

1、「大変良かった」

- ・現状と今後についての問題や取り組みについてよく分かった。私は日頃なかなか関わったことのない制度であるが、徐々に必要な状況となっているのは感じていた。
- ・勉強になりました。数値で分かりやすく今後の動向を知ることができました。
- ・動向や課題について、非常に分かりやすく説明して頂き、理解が深まりました。R9 年度に今以上に利用しやすい制度になることを期待しています。中核機関の役割がぼんやりだったのですが、分かりました。もっともっと機能してほしいし、行政の考え方、方向性も重要で急務だと思いました。またぜひお話を聞きたいです。
- ・国の動向がよく分かりました。今後の動向を意識していきたい。
- ・中核の役割、法などについて分かりやすく教えて頂きありがとうございました。
- ・成年後見制度について最新（今後）の情報を得ることができました。また、中核機関の立ち位置、役割も理解できました。ありがとうございます。
- ・今後の成年後見制度の動向について令和8年度に向けて変わることを知り、自分の知識のアップデートも必要だと感じた。

中核機関の役割について将来的な動き方や役割も知ることができ、勉強になった。

- ・親族後見人の割合が年々と減ってきているのを改めて数値で見て驚いた。後見制度の認知度が上がるのは良いことだが、受け手の不足に対しての対策が急務であると感じた。
- ・中核機関のこれからの役割も学ぶことができ、チーム支援の大切さを感じた。
- ・中核機関の役割がとてもよく分かった。
- ・成年後見制度の動向、そして方向性、更には中核機関の役割について分かりやすく説明いただきありがとうございました。

民法改正と社会福祉法の改正が現場ではリンクしておらず、ヴィジョンが一部に描けていないように感じています。ここをどう伝えて市町村が重層的支援体制整備も含めて進めていくことができるか鍵を握っていると思います。

- ・統計からみる制度運用の実状や国の動向を知ることができ、参考になりました。
- ・中核機関の機能や中核機関と家裁との情報共有の在り方について等、とても参考になる講演をいただきました。今後の実践で生かしていきたいと思います。
- ・国の動向や中核の方向性をうかがい、前向きな気持ちになりました。R8 に向けたん情報にアンテナを張りたいと思います。
- ・今後の動向を含めたお話により、中核機関の設置、運営に向けたイメージが構築されました。
- ・令和8年に向けて変わっていくことが分かった。また、中核機関の役割が重要になってくることが感じられた。そのための人材育成も必要と感じるが、人手不足の状況を改善しないといけないのではと感じた。
- ・民法改正、社会福祉法の改正がとても楽しみにになりました。中核機関の法的根拠が明確になれば、業務連携が広がると思います。

- ・今後の後見制度について大変分かりやすくお話しいただきました。後見はなぜ必要か、改めて考える機会となりました。今まで深く考えず”後見”と考えてきましたが、本人にとってどんなことが必要で何に困るか、再度考えたいと思いました。
福祉や本人の持つ資源を見つめ直してスポット後見など新たな体制に向けて準備したいと思いました。
- ・動向がよく分かりました。
- ・最近の状況を分かりやすい資料でまとめて分かりやすい表現でご講義いただきありがとうございました。
- ・家裁の現状など内部状況にも精通されていらっしゃるの、興味深く拝聴できました。
- ・国の現状の動きと課題について、国のホームページの会議録からだけでは分からない情報を得られました。中核機関の法整備化についてはメリット、デメリットどちらも感じます。
- ・成年後見制度の今後の動向を知れて良かった。また、中核機関について勉強になった。
- ・現在の状況や今後の見通しなど、日常業務では知り得ない情報を知ることができました。
- ・表題についてまだ知らないことが多かったので、学ぶことが多かったです。資料も分かりやすかったです。
- ・制度制定時から現在に至るまでの見やすいデータを用いて、説明して頂けて、傾向・動向を含めとても分かりやすかった。
- ・具体的なお話をいただけて大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・制度改正に伴う政策課題について知ることができた。
- ・身近な状況と今後の方向性が分かった。
中核機関が立ち上がり、地元（上越市）では周知の段階だと感じている。活用について考えてみたい。
親族後見を頑張っている人に積極的に中核機関を活用してもらいたい。

2、「良かった」

- ・現状と今後についての問題や取り組みについてよく分かった。私は日頃なかなか関わったことのない制度であるが、徐々に必要な状況となっているのは感じていた。
- ・具体的な数値を分かりやすく説明していただいたのは良かった。
法改正に向けて課題が明確になったことも、この時点で知ることができて良かった。
- ・まだ関わりが少ない分野だったので、お話を聞けて良かった。
- ・患者さんの中でも携わる方が多い。法律と背景を知ることができて良かった。
- ・現在の国の動向が知ることができた。
- ・実情から国の動向について、学ぶことができました。日々の支援で後見制度が必要になってくるケースが増えている実感があり、申立できる親族が不在なケースも増えてい

る実感があったため、統計からみて納得できた。ますます中核との連携が必要だと改めて感じた。

- ・背景やこれからの展開がイメージできて良かった。
- ・現在の成年後見制度の現状を知ることができて良かった。特に、今後は長期的に本人を見ていく上でも法人後見のニーズが高まっていくと感じる。
- ・今回、中核機関のこと、その役割について理解した。
- ・今井理事長様のお話をもっと伺いたかった。
- ・市町村申立ての推移が、平成 12 年頃 23 件だったのが、令和 5 年に 9607 件。親族と第三者の法定後見人選任の割合が平成 19 年親族 90.9%、第三者 9.1%、令和 5 年親族 18.1%、第三者 81.9%。第三者が増加しているのが”今の社会の現状“だと思った。令和 8 年の民法、社会福祉法の改正の話を少し聞けて良かった。
- ・今後について知れて良かったです。
- ・現状をよく理解できました。
- ・金融機関として成年後見制度との関わりをもう一度学び直すきっかけとなった。
- ・成年後見の現状と現在検討されている将来の成年後見制度について部分的であるが、分かりやすかったです。
- ・統計の選択が的確で理解しやすかった。
- ・中核機関の状況が理解できた。特に知多地域での状況が新鮮だった。
- ・成年後見制度の現状を知ることができた。制度として過渡期にあると感じ、今後中核区間の存在が大切になると改めて思いました。
- ・権利擁護に対する現状を理解することができました。ポイントを押さえながらの説明だったので分かりやすかったです。「終わる後見」という視点は持ち合わせていなかったもので、新たな見方ができました。

3、「よく分からなかった」

- ・まだ自分が学び始めたばかりのため、「よく分からなかった」となりました。しかし、日常で必要性を感じる日々が、全国的にも同じなのだなと思いました。困ったときは、視野を広げて相談していけたら良いなと感じました。

4) パネルディスカッション『地域の権利擁護支援の中核であるために』について、ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	48名
2、良かった	24名
3、よく分からなかった	0名

※無回答 4名

1、「大変良かった」

- ・今後、地域で本人を支えていくために、他地域との連携も考えていく必要があると実

感じました。

今までにはない視点で見て、体制を整えていくことが今後求められるのかと思いました。地域を巻き込んだ支援体制ができると、お互い安心できるなと思います。

- ・各中核機関の実状を知ることができて良かった。

長岡市権利擁護地域連携協議会のあり様がよくまとまっていて理想的な中核機関運営だと思いました。

NPO 法人等小規模で中核機関に財政支援が必要と上山先生から伺えたのはとてもありがたかったです。国にもっと働きかけてほしいです。

- ・3団体のお話、とても参考になりました。コーディネートも含めて、楽しく聞くことができました。また、とても学びが多かったです。ありがとうございました。
- ・それぞれの市の取り組みについて具体的な説明があったことで、当市の今後に向けての参考となりました。
- ・知多の中核機関の事例が分かりやすく、もっと聞きたかったです。
- ・各地域における取組、課題等聞くことができ、身に染みて感じる事ができた。
コーディネーター寺口さんの切れ味がすごかった。
- ・予算を付けることで（予算を取ってくる）困っている人を助けられることもあるのだと感じた、その背景には1つのケースからというところが、とても共感できた。
- ・普段の地域支援チーム作りの強化をすることで、後見人の方の役割が明確化でき、本人の権利を守ることができると感じた。
- ・知多の取り組み、今井さんの生の声を初めて聞けて非常に良かったです。知多では、経験が沢山あるため、色々な視点、業務について学ぶことができたので、学びが深まりました。
- 上越でも上越らしく、上越の住民が利用しやすい中核機関や権利擁護の支援対応、支援を構築していくことが大切だと思いました。ありがとうございました。
- ・それぞれの取り組みが（違い、特徴）分かり、興味深かった。上越市の成年後見支援センターの活動により、地域のつながりが広がり、強まることを期待します。自身の役割についても考えることができました。
- ・上越では中核が立ち上がったばかりだが、先進的な中核の現状が知れて、今後の方向性の指針になったのではと思う。
- ・中核区間の役割がよく分かりました。楽しい研修でした。
- ・成年後見の現場から見えることを自分たちも共有して、今後の業務に活かしていきたい。
- ・地域ごとに違う状況がよく分かりました。特に知多のお話は参考になりました。今後の目指す姿の一つとして考えていければよいと思いました。
- ・上越市をはじめ、他の市の状況が知れて良かったです。とても分かりやすかったです。
- ・各市の取り組みを知ることができて良かった。特に上越市の内容は不明だったところもあり、本日の説明で概要が分かり良かった、ミスマッチに繋がらないよう相談等を行い、

本人と一緒に考えていけるような支援をしていきたい。

- ・実践、実務の話が聞けて良かった。分からない不安が少し良くなった気がする。上越市は今後成長できるようにしていくことも大事だと思った。
- ・いろいろな考え方、在り方がありなと感じました。ありがとうございました。
- ・めぐり合わせ、タイミング、運があると思ったが、やり続けることが大事だと思った。
- ・今井さんの話に元気をもらえました。地域包括業務にも生かしていきたい。
- ・上越は、まだまだ始まったばかりではあるが、先に取り組まれている地域の取り組みを聞くことができて良かった。
- ・自身も福祉職にて時にはチームの一員になる可能性があり、その際には自身の立場から意見が出せるように、日々制度や仕組みの理解を深めていく必要があると感じた。
- ・異なる経験の中核機関のそれぞれの体制を聞くことができて勉強になった。
- ・それぞれの地域特性や設立時期によって特徴があることがわかりました。皆さんの取り組みを参考に、できることから取り組んでいきたいと思います。
- ・他地域の取り組みについて聞くことができて勉強になった。知多地域では、行政の委託により安定して資金を調達できて、行政の委託でしかできないことがあり、良い方向に進んでいることを知ることができて良かった。これからの取り組みについて知ることができて良かった。
- ・上越、長岡 誠実に日々業務をされているのがひしひしと伝わりました。
今井さんのお話いつもながら最高にわくわくします。
R8以降ますます発展していけるようご尾教示願います。
- ・今井さんの話で意思決定支援のことが思ったより少し出ました。制度の現状、今後の展望などいろいろ知ることができて良かったです。
- ・今井さんのお話を楽しみにしていました。難しい言葉ではなく、シンプルに困っている人がいたら放置しない、など自分の信念、意思をもって動くことが大切だと勇気づけられました。期待以上でした。ありがとうございました。
- ・それぞれの取り組みを大変興味深く聞きました。今井さんの経験談をもっと聞きたいなあと感じました。
- ・各地の取り組みが分かり、自分の業務（児童福祉）の方でもしっかりやりたいと思いました。
知多の取り組みを知り、我が地域の課題にもっと真剣に取り組みたい、仲間と話をしながら取り組みたいと思いました。
- ・特に知多の取り組みに感動した。先進地をモデルに上越地域が発展することを願います。
- ・申立て前、制度の利用についての相談はやはり必要かと考える。
知多と比べてはいけませんが、人、モノ、金は成果を出すためには必要なのかと感じた。
行政の委託費等や姿勢など同じ方向を向くってのは必要かと。
権利擁護支援はまちづくり→こういう考えも地域づくりに必要な視点だと感じた。

- ・設立年度別のセンターの取り組み、課題等を理解することができて良かった。
学生時代を過ごした知多半島地域の話が興味深かった。
- ・ケアマネジャーをしています、私自身も勉強不足で戸惑ってしまう場面もあったので、地域の支援センターとの連携を深めて自分の役割を少しでも果たしていければと再認識しました。今後、ご利用者様のためにも活用させてもらいたいと思います。
- ・知多の今井さんと同じ思い「うちがやらなきゃ、誰がやる」という気持ちが日々関わっている。新潟の社協が委託されている法人後見は、対象者が絞られたり、内容が決まっていたりしてまだ固く感じる。社会福祉士の後見づ個人でされている方は、後見報酬だけなので、行政からの委託費があればもっとなり手も増えると思った。法人後見とのリンクができればいいかなと思った。きめ細やかに支援されている方ももっと評価されるべきだと思う。

2、「良かった」

- ・地域の中で権利擁護支援を進めていくためにも中核機関の在り方がとても重要であり、上山先生が最後に話されていたように、地域づくりとしてヴィジョンを示していくことが大切だと実感しました。ありがとうございます。
- ・今後の展開を気に留めていきたい。
- ・各地域の成年後見の取り組みや、支援センターの現状について説明があり、参考になりました。権利擁護支援という言葉や取り組み内容を初めて知り、勉強になりました。
- ・上越市の場合、後見申立の話は包括の窓口あるいはセンターが電話で受けた相談を包括に繋げるなどの話もあり、他職種連携で幅広く必要な人を登録して頂けるのかなと安心した。
- ・地域によって違いが大きいのだと思った。行政との繋がりや行政の考え方が大切。
- ・各地域での権利擁護支援の在り方の違いを知ることができた。
金と人権意識の兼ね合いを意識しながら続けていくことが大事だと思う。
- ・それぞれの市によって動きの違いを感じました。市の委託ということもあり、行政とのすり合わせが大切で、難しい部分なんだろうと感じました。
知多のように地域のニーズに即した自由な体制はすばらしいと感じたのと、後見制度を利用する側も安心なのかなと感じました。
- ・各地域の情報を知ったことは良かった。知多地域のお話はとても分かりやすく良かった。
コーディネーターの寺口さんの質問が的確で良かった。
- ・独居、高齢世帯、高齢世帯の子供に障害がある…身近なお話を聞くことができ、良い機会となりました。
- ・知多地域権利擁護支援センターの今井さまのお話では、魅力的な取り組みに驚いた。委託費が公務員並みで保障されているとのことで、理解者の後ろ盾がありお金のある自治体はすばらしいと思う。働き手がやりたいこととやるべきことを上からの圧力なく

できるのだなと感じた。

- ・今井さんのお話が大変おもしろく拝聴できました。
- ・今井さん最高！数年前にお邪魔しましたが…あれからも変わらずますますパワーアップ!!元気が出ました。
- ・実際の例を聞くことができ、後見人制度の必要性を再確認できました。
- ・今井さんのお話をもっとたくさん聞きたかった。

その他

- ・まだ1年生の上越市、3年生の長岡市も中核機関として与えられた機能をよくやられていて、成果も出されていて感心しました。
- ・現在の地域の権利擁護の中核である現状、取り組み、これからの流れ、地域関係の動きを知る。

地域の権利擁護を変えていく、必要な人が使える基盤づくりを進めていける、関係者が集まる機会ができると良いと思う。その中心になってもらいたい。チーム支援が大切であることを実感した。

(3) 11月27日 滋賀県 甲賀市

全国権利擁護支援ネットワーク 2024 年度
「意思決定支援を含む権利擁護を進めるための中核機関の役割と実務研修」
～身寄り問題と権利擁護支援～
開催報告書

1. 日 時 令和6年11月27日（水） 14:00～16:30

2. 会 場 あいこうか市民ホール

3. 参加者数 106名

4. プログラム

(1) 基調講演

『身寄りのない方の支援を地域で支える』

講師： 山口 正之さん

(全国権利擁護支援ネットワーク共同代表/
萩・長門成年後見センター理事長/弁護士)

(2) シンポジウム

『身寄り問題の現場から』

パネリスト：廣田 岳尚さん（社会福祉法人慈恵会 理事長）

大津 裕昭さん

(名古屋市社会福祉協議会 名古屋市成年後見あんしんセンター)

桐高 とよみさん

(ぱんじー所長/全国権利擁護支援ネットワーク副代表)

コーディネーター：山口 正之さん

コメンテーター：佐藤 彰一さん（全国権利擁護支援ネットワーク顧問/弁護士）

5. 報 告

これを企画することで、会場選びで行政との協働の機会を得られた。行政から、ぱんじーの出向職員の活躍の場にもなった。地域連携を目指し、地域の社会福祉法人の登壇が実現できた。色々な方面からの、身寄り問題を真剣に討論ができた。参加者も自分事のように考えられたようだ。

作成者：桐高 とよみ

意思決定支援を含む権利擁護を進めるための中核機関の役割と実務研修
～身寄り問題と権利擁護支援

(2024年11月27日・滋賀県甲賀市) アンケート集計結果

回答数：78

1) (A) お住まいまたは所属先の所在地

滋賀県 (76名)	甲賀市 (2名)	大津市 (2名)	湖南市 (6名)	東近江市 (5名)	近江八幡市 (5名)	長浜市 (5名)	守山市 (4名)
	彦根市 (3名)	草津市 (2名)	野洲市、日野町、竜王町、米原市、高島市、栗東市 (各1名)				
三重県	伊賀市 (2名)						

※市町村無記入 2名

(B) 職種(所属) ※複数回答可

1、自治体	14名
2、社会福祉協議会	21名
3、福祉職(高齢)	26名
4、福祉職(障害)	7名
5、法律職	5名
6、会員団体	7名
7、その他	7名(NPO法人、中核機関、権利擁護センター、MSW、 (リーガルサポート、コスモス成年後見サポートセンター各1名)

※無記入 1名

2) 本研修は何でお知りになりましたか? ※複数回答可

1、チラシ	30名
2、ホームページ	3名
3、職場・関係機関	48名
4、友人・知人	2名
5、その他	3名(LINE、県社協 各1名)

3) 基調講演『身寄りのない方の支援を地域で支える』について、ご意見・ご感想

1、大変良かった	41名
2、良かった	37名
3、よく分からなかった	0名

1、「大変良かった」

- ・各市町の具体的な取り組みについて知れて勉強になった。
- ・自分の地域はどうだろうか？と比較しながら聴講させていただきました。その方の家族や地域での生き様などで身寄り問題や社会的排除をされていることもあり、深い問題だなと思いました。またいろんな話が聞けとても学びました。
- ・「社会的排除」出発点ということに気づけて良かった。
- ・「身寄り問題」について、今回の講演をお聞きして初めて課題や取り組みについて知りました。身寄りがあることを前提とした社会は、今後ますます現状と大きく異なってくると考えると、地域で支えていくことの重要性や役割、意味を知ることができて、大変良かったです。
- ・身寄りがいない人が排除される社会の実情などを聞き、改めて意識しました。
- ・身寄りのない方の支援というと行政や社協など公的機関が担うイメージがありました。それぞれの機関だけで担う負担が重く、限界があると思うので、地域住民やインフォーマルなところも巻き込んで支援を考えていく必要があると思いました。
- ・病院や施設の身元保証の現状が知れて勉強になりました。
- ・身寄りがいない方が例外とされてきたが、今やスタンダードであるとの考えを学ぶことができました。ケアマネをやっていて困難事例と思われる中には身寄りのない方の支援がありましたが、一つ一つ何に困っているのかを紐解いていくと、解決できそうに思えました。そして何よりも身寄りの有無に関わらず尊厳が守られ、誰しもが平等が保証される世の中であるために地域の力の一つになりたいと思いました。
- ・同じ県内でも四日市のような活動があることは知らなかった。権利擁護という言葉だけを聞くと難しく感じたが、その人を中心として考え、みんなで一緒に考えていこうというスタンスはとても大事だと感じました。改めて知識を身に着け、現場で生かしていきたい。
- ・対応方針等が分かりやすく聞けたので良かった。
- ・地域包括支援センターで仕事をしていると、身寄りのない方に緊急連絡先を病院、施設に求められることが多々あります。何のために必要か？という点については病院、施設とはまだまだ共有されていないと思います。地域全体で考えていけるといいなと思いました。
- ・身寄りがいない人が例外と扱われ、排除される。まるで身寄りのないことは自己責任みたいだと感じた。
- ・身寄り問題の解決が地域づくりと再確認できました。
- ・日頃、疑問に思っていることについて、納得できる説明をしていただいた。チームで取り組む必要性を改めて感じた。

- ・ 山口先生のお話、大変参考になりました。身寄りがないと自身は“今年事例”としていましたが、それがスタンダードになりつつあることを理解し、今後の支援に活かしたいと思います。
- ・ とても良い内容だったので、継続して開催して欲しい。
関連する事例ばかりであるので今後も沢山学んでいきたい。
- ・ 身寄り問題の基本的なところや課題、現状についてよく理解できた。
- ・ 専門職だけでなく市民向けでも多くの方が聞きたい内容だと思います。
- ・ 保証人がいない社会になるように早く法改正をしてほしいと思います。
- ・ 視点を変えた話が聞けて良かった。弁護士としての考え方や手法的な部分が聞けて役立った。
- ・ 身寄りのない人が例外として扱われていることに驚きました。言われてみたら、そうかも、と実感できる話で、自分が高齢者になったときはどうなるのかと思われました。当然のことかもしれませんが、制度等を決める場所には本人はいません。少しでも本人にとっていい制度、いい世の中になればいいなと思います。ありがとうございました。
- ・ 「課題の共有」なにが課題となっているかしっかりと聞き取り、ではその課題に対してどうするのか、それを誰がどのように対策するのか、役割分担が必要。権利が脅かされることへの危機感、これからますます増加することが考えられるので、どのように対応していくのか。考えなければと思います。

2、「良かった」

- ・ 身寄りのない方が、入院され転院されるなどなったときや施設入所の時等必ず保証人の話になります。頭を抱えながら後見人の手続きの流れになることが多い気がします。後見人ではなくても県社協の取り組みや NPO 法人にマッチできればもっとスムーズに支援もできるかなと思います。(NPO 法人の〇〇会の入会金が高いのがまた悩ましいところですが)
- ・ 内容としては知っている内容ではあったが、今取り組んでいる内容が間違っていないこと、大事なことの確認ができました。
- ・ サービスを広げ過ぎると。身内の責任とのバランスが崩れるのではと思う。後見活動の中でジレンマを感じるが多々ある。すべての地域ということではないとも思っている。と言いながら動いてはいるが、死後事務しかり。
- ・ 身寄りがあって（いて）当たり前である社会であり、支援する私たちも、支援者（家族親戚）が居て当たり前という考えを持っていることが間違いであったと気づいた。権利擁護支援とは、本人が自分で決めることを支援するということを念頭に置いて今後の支援に活かしていきたいと思いました。

- ・私の働く施設でも、身元引受人であった息子さんが亡くなられ、息子の嫁や孫もこの先看ていけないと言われている利用者さんがおられ、今まさに成年後見人や生活保護の申請を進めているところなので、詳しく知れて良かったです。
- ・「身寄りのない方…」の講演については理解したが、その後どうしたら良いのか？どう対応していったらいいのか？という事例を交えての話が聞きたかった。
- ・分かりやすかった。
- ・地域の人に関わるのは、難しいのではないかと思います。
- ・費用が捻出できない困窮等の具体的な支援や取り組みがあれば知りたかった。
- ・身寄り問題について、整理することができた。後見人＝保証人ではないことが分かった。できることできないこと、備えておくべきことは何かもう少し詳しく聞きたい。身寄りのない方のガイドラインがあることを知れたので、また見てみたい。
- ・身寄りのない人が例外として扱われ、サービス等が受けられないという人が増えてきているという状況に驚いた。
- ・仕組み作りは分かりました。お金がない人への支援、平等（自分で契約する人 tp 扶助や減免の人）、財源について考えていく必要があると思いました。
- ・色々な自治体の事例や行政の責任について知れなかった。
- ・身元保証人が本当に必要か問題提起をされながら様々な全国の取り組みを聞くことができて良かった。
身寄りがあるなしに関わらず、尊厳をもって暮らせる地域社会になれば良い。
- ・色々複雑で分からないことが多かったのもっと勉強しないといけないと思いました。
- ・身寄り問題を地域課題と考えると、社協としてもできること、やるべきことが見えてきた。
- ・身寄り問題は個々人の問題だと思っていたので、地域全体で取り組むべきものだと思い、目から鱗でした。もう少し具体的なお話も聞ければ良かったなと思います
- ・制度をどう考えどう作っていくのか、参考になりました。
- ・地域のサポートで本人が亡くなってから出てくる財産だけを受け取る勝手な親族で良いのか。親族に地域の活動に（住民が続けられる地域づくり）寄付くらいしてほしいと思う。親の面倒を地域に押し付けている人が多くなっていると感じている。親子関係が良くない。
- ・現状をうまく伝えてもらったと思います。
- ・身寄りのない人を“例外的に扱う社会”が腑に落ちた。
- ・課題を知ることができたこと、考え方の土台を知ることができたことは良かったです。
- ・問題点と支援体制の紹介を早口でされた。細かいところまで突っ込んでいかなかった。時間が足りないと思った。

- ・身寄り問題がこれまで“例外”として扱われ社会サービスから“排除”されてきたという視点で学ぶことができた。
- ・時期を得た問題で分かりやすかった。
- ・「身寄り」のない人の支援は本人、地域住民の支援者、行政等がチームの役割分担を行ったうえで対応することが基本。しかし実際はその役割分担ができていないことが多い。行政も動いてくれない。ケアマネージャーの負担が大きすぎる。潰れてしまいます。

4) シンポジウム『身寄り問題の現場から』について、ご意見・ご感想

1、大変良かった	55名
2、良かった	22名
3、よく分からなかった	0名

※無回答 1名

1、「大変良かった」

- ・いろいろな地域の話も聞け、足元を見ていきたいと思いました。支援方法など法人の在り方（3つの）やっておられることを聞き、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・各立場からの違う目線での話が聞けて良かったです。
- ・直近の立場を踏まえて具体的なお話を聞けて参考になりました。
- ・いろいろな事例や取り組みが分かって人と人との関係性を求めながら身寄りの課題を解消できればと思いました。
- ・各団体の取り組みが知れて良かった。困りごとは地域によってさまざまで解決策も工夫しながら考えていきたい。
- ・「身寄りなし」とさんという名前ではなく「その方」を見て支援したいと思いました。
- ・「身寄り問題」についての様々な取り組みをお聞きすることができて大変良かったです。地域で自分らしく生きていくために自分で決めることを支援することの大切さ、チームで協力しながらそれぞれ役割分担して進めていくことが大切であると思いました。ありがとうございました。
- ・各パネリストの実態、実践活動聞き、参考になった。保証人がいなくても当然の権利として医療、介護サービスを受けることができる。保険料を払ってきているのだからとの個人見解もその通りだと思いました。
- ・それぞれのお立場、分野の話聞き、身寄り問題が広範囲で深刻な、そして誰もが関わる機会があり、取り組める糸口があるのかと感じました。
- ・身寄りのない人同士が支えあう仕組みが必要という言葉が印象に残りました。また、保証人が必要？という巷ではよく聞かれる問いかけについて分解して頂けたことで、今後どう考えていくのかヒントを頂きました。
- ・保証人がなぜ必要なのか？身寄りのない方の利用希望をどのように叶えていくのか、持

ち帰って考えたいと思わされた。また、社会福祉法人としての果たすべき役割も改めて考えていきたい。

- ・ゆいの里に入所されている方、何名もの後見人等をしていたことがあります。初めは、近く人親族がいない方の施設での看取りをしてもらうのに少しハードルが高かったですが、徐々に身寄りのない方でも施設で普通に看取りをしていただけるようになり、大変嬉しかったです。
- ・3人のお話をもっとじっくり聞きたかったです。「ガイドラインも必要だけど、本人が決めることを支えられる地域づくり」していきたいです。
- ・保証人制度は、どうしたらなくなるのか。社協もルーティーンではなく、地域に貢献できる事業をしていく必要がある。
- ・身寄りがない方が増えていく社会で、それぞれの団体で取り組まれていることが聞けて良かったです。ありがとうございました。
- ・課題に対する取り組み、考え方をお聞きすることができ、大変勉強になりました。
- ・ばんじーさんが支援されていく上で、何を大事にされているのかを知ることができ、良かったです。
- ・ゆいの里さんの地域共生社会の一つの形のゴールイメージが図を見て素敵だなと思いました。名古屋市社協さんの活用されている私の気持ち応援シートはケアマネとしても活用したいと思いました。
ばんじーさんの事例を聞き身寄りがなくとも様々な支援者に支えられることで、最期まで自分で決めることを支援していくことは可能であり、逆に親族が多くいても地震のことを他の家族が決めてしまわれている方もあり、本人の思いにケアマネとして意思決定の支援を行っていきたいと思いました。
- ・身寄りのない方でも社会から取り残されないようにする取り組みを地道にされている報告をうかがうことができました。中核機関として地域とともにこれらの課題にどう向かっていくかという宿題を与えられたように思います。ありがとうございました。
- ・各取り組みを聞いて、点ではなく線で繋がっていることがどれだけ地域に住んで安心できるのかと思った。明日は我が身と考え、家族と話し合うことを設け、将来のことをしっかり支えていきたい。
- ・他のところの取り組みが聞けて良かった。
- ・ばんじーさんの身寄りがあってもなくても「自分で決めることを支援する」地域づくりがしていけるといいなと思いました。ありがとうございました。
- ・業務での家探しやそれに伴う相談が増えている中での居住支援について、また、既存の施設や方向転換など、考えていくヒントは多くあると感じた。
名古屋で経験されていることが、滋賀や勤務する市町村でも起こってくるのではないかと思います。パンジーさんの活動は、他の圏域に伝えて頂き、関係機関との連携、役割について考えたいと思います。

- ・新しい信用取引が必要だと感じた。
- ・居住支援についてほとんど知らなかったので、聞けて良かったが、ハードルが高そうなので旗振り役が大変そうで強い人が抜けるとしんどそうだった。
名古屋が進んでいるイメージがあるが、やっぱりお金がないとしんどそう。身元保証を求められる実情がある。ばんじーはもっと人を増やしてあげてほしい。
- ・本人の意思決定支援の重要性を意識していきたいと思った。貴重な機会をありがとうございました。
- ・守山市、名古屋市での取り組みがよく分かった。それぞれの地域でできる立場の人ができることを実践していきたいと思った。当たり前のように“保証人”という言葉が使われる時代では何のだと学ぶことができた。大津さんの話が大変分かりやすかったです。
- ・保証人がなくても課題に対応できる役割分担を関係者ができたら良い。話し合いができたら良いと思った。
- ・緊急連絡先を求められることが多いが、何をしたいかよく分かった。分解して検討することで、役割分担ができることが分かった。
- ・名古屋市社協のお話がうまくてびっくりしました。さすが大都市。
ぼやっと感じていたことが明確になった気がします。(緊急連絡先が必要な意味など)
慈恵会の取り組みはすごく面白いと感じました。
甲賀市はばんじーがあるので安心できます。
- ・大切なのはやはり意思決定支援であると改めて感じた、大切にしたいと思う。
- ・意思決定支援により本人のエンパワメントを意識された取り組みをされているので非常に参考になった。
- ・名古屋市社協大津さん…地域で暮らすための入所・入院の備えなどツールづくり事業を通して、なぜそれが必要なのか分かりやすく説明いただいた。リスクも想定された制度設計。これまで医療保険、介護保険を払ってきたのに、身寄り（保証人）がないことで、入院、入所を断られることのおかしさ、納得です。
桐高さんの身寄りなしという呼び方の違和感、支援者が陥りやすいとこだと思いました。身寄りがあるとしても「自分で決めることを支援する」
全体…“身寄りなし”という大雑把なイメージをそれぞれの立場から分解して頂けたシンポジウムでした。
- ・具体的で参考になった。
- ・支援の現場での課題や具体的取り組みについて理解が深まり、各地域取り組みを展開していく必要があると感じた。沢山の支援のヒントをいただき、ありがとうございました。
- ・身寄りがないから、緊急連絡先がないから、後見人制度を利用すると考えていました。
自立支援、自分で決めることを支援していくのだと自分が思い違いをしていることを知ることができた。
私の気持ち応援シートで支援内容、担当者名を明確にすることができればよいと思う。

- ・身寄りのない人が集まれる居場所が必要だと思います。
- ・最近、身寄り（同居家族）がいても、高齢だからダメとか（保証人になれない）色が不安定だからダメだとかダメな理由がどんどん増えているように思います。施設入所にあたって探す作業をあっせん業者人頼むことがもはや定番となり、福祉職が保証もんだについて問題提起する機会、課題に気づく機会が逸失しているようにも感じます。
(斡旋業者はニーズを埋める存在で私はとても賛成していますが) 毎日毎日、包括から親族がいない人が施設に行くから後見申立説明を、と相談がありますが、とても変だと思っていました、シンポジウムを伺って、多少変と感じても良かったんだなと思えました。シェアハウスの案とても面白かったです、入居者は一般の賃貸のように行って保証人は不要というイメージでしょうか。相互扶助が存在しうるコミュニティ化を、という理念でしょうか。コミュニケーション能力が問われそうですね。母子家庭のシェアハウス（施設ではなく民間賃貸）があるとニュースで見たのですが、高齢者バージョンができればすごいと思いました。
- ・緊急連絡先を求めるサービス事業所や HP について、税優遇を受けている法人なのという話があったが、自費分の費用が支払われないと赤字となりサービスが維持できなくなり、他の利用者、働く職員が困る結果となりかねない。また、利用中何かあったときの駆け付けも行政がスムーズにフォローしながらなら別だが、そうならない場合、困る。やはり何らか“身寄り”に代わる役割を担えるサービス、事業を民間任せにされるのには疑問がある。
近江八幡市では後見センター（中核機関）の委託がなくなったまま。「司法書士に相談してもらって」「リーガルサポートに相談を」と言うだけで成年後見センターがしていた役割の部分に何のフォローもない。また、成年後見センターの委託がなくなるときも事務所に連絡もなかった。事業所側からしたら行政に信頼が持てず、枠を超えた取り組みをしようとは思にくい。
- ・個人的な印象ですが、法定後見の相談等はあまり行政書士には来ません。学ぶ場所を見つけて今回のように勉強させて頂いていますが、身寄りのない方だろうが、そうではなかろうが、その人の本心に少しでも近づいて少しでも安心してもらえる活動ができたらいいなと思わせていただきました。今一人保佐につかせて頂いていますが、私で良かったと思ってもらえたらな、と思っています。ありがとうございました。
- ・各団体の立場からの意見や水面下での話が聞けて良かった。
- ・「身寄り」ではなく「意思決定支援」その通りで、そのように支援していきたい。社会が「身寄り」を求めているので、やはり「身寄り」を「どうするか」という支援になってしまう。そのようにならないように、なぜ必要？しっかり考えていくことも大事。

2、「良かった」

- ・身元保証制度はいらないという取り組みを関係者で進めるべきだと思った。特に、まずは行政理解が大前提にあると思う。
- ・それぞれの立場の方からさまざまな話を聞けて勉強になりました。ありがとうございました。
- ・名古屋市でエンディングサービスをされている社協。財源は行政が確保するべきだと思う。「平等・公平」について意見もあるだろうが、実施するところが赤字はあり得ない。
- ・行政に携わる中、身寄りがなくても生活保護であれば OK みたいなところがある反面、生活保護受給者が、様々なサービスを利用するときになると、「身寄りがないから」「連絡先がないから」「生活保護の緊急連絡先や最後の責任を取ってくれるなら」と言われる。たまたま生活保護を受けなくてはいけない事情があるだけなのに、こんなに地域で生きづらい環境にあるのはなぜ？といつも思っている。社会も支援者ももう少し地域で生きる私たちと同じという感じで受け止めてもらえたらなといつも思っている。感想がずれていてすみません。チームで支援していきたい。最後の話、「身寄りのない人同士が与え合う」は個人的には賛成です。
- ・これまで身元保証問題についてあまり触れてこなかったが、身寄りのない人がたくさんおり、それに対する支援について、各所で検討、取り組まれていることを知り、自治体としても検討していく必要があると感じた。
- ・今日の全体の次第が欲しいです。
6つの機能をそれぞれの機関が役割分担していくことが大切だと思った。
保証人がいないと入所できないという厳しい現状が分かって勉強になった。
身寄りのない障害者が一人暮らしをしたい、地域で暮らし続けたいというケースもあります。高齢者だけでなく障害者にもスポットを当てた研修会も開いてほしいです。また、この分野は自分にとってまだまだ勉強が足りないテーマだと気づくこともできました。今後勉強していきたいと思います。ありがとうございました。
- ・現場での現状や困りごとはよく理解できた。そこを解決するための地域づくりや社会の仕組みを変えるためにはどうしていけばいいか考えていきたい。
- ・具体的な現場の話が聞けて良かったです。
- ・身寄りのない人が増えていると感じる。後見人が付いていない人も多いが、緊急時のことを考えるとなかなか施設や病院の受け入れは難しいのではと感じた。様々な地域の取り組みを聞けて良かった。
- ・名古屋市の権利擁護の話については、福祉施設で働くものはとてもよく分かった。各施設に社会福祉士が一人でもいれば身寄り問題について、各機関と調整や話し合い等もスムーズに運べるのではないかと、とも思ったし、成年後見人との兼ね合いも上手くできるのでは、と思った。
- ・身寄りのない方にとって、後見人の存在は心強いと思った。
- ・守山市、名古屋市の取り組みを知ることができた。病院やサービスを利用するためには、

- やはり保証人や親戚など連絡のつく人を求められる社会であるということを実感した。
- ・様々な取り組みや事業者さんの話を聞けて大変ためになりました。連携や繋がりやの輪を広げることが大切だと感じました。また、本人の意思を常に中心において支援することが重要だと思いました。
 - ・身寄りのない方に対する世間の「当たり前」の意識の変革と権利擁護支援の根幹である本人の自立支援、自己決定を念頭に置いた支援を心掛けたいと感じた。
- 研修の企画、運営などお疲れ様でした。またぜひ参加したいと思います。

無記入

- ・慈恵会さんは社会福祉法人の地域貢献と言われる以前からボランティアの窓口関係等地域福祉活動を実践されていると思います。当時からの取り組みの話も聞けると住民ニーズに沿った支援、本人の意思決定支援の参考にさせていただけたと思ったので、もう少し聞きたかったです。（時間的に仕方ないですが）居住支援だけでなくばんじーさんの最後のスライド、日々実践の中で考えていることと同じで方向性が間違っていないという確認ができた。
- 名古屋市さんの取り組み、参考になりました。事例が聞けたのが良かったです。
- オンラインでの開催も併用して頂けると、より多くの方に参加してもらえと思いました。

(4) 12月4日 山口県 萩市

全国権利擁護支援ネットワーク 2024 年度
「意思決定支援を含む権利擁護を進めるための中核機関の役割と実務研修」
～身寄りのない方を地域で支えるための地域づくり～
開催報告書

1. 日 時 令和6年12月4日(水) 13:30～16:30

2. 会 場 萩市総合福祉センター 多目的ホール

3. 参加者数 31名

4. プログラム

(1) 基調講演

『身元保証はほんとうに必要か?』

講師: 山口 正之さん

(全国権利擁護支援ネットワーク共同代表/
萩・長門成年後見センター理事長/弁護士)

(2) 実践報告

「親族がいないあるいは協力が得られない方への『くらしあんしんサポート事業』
の取り組み」

今井 友乃さん(知多地域権利擁護支援センター事務局長/
全国権利擁護支援ネットワーク事務局長)

「萩市社協の取り組み～自立生活安心サポート事業など～」

田屋 善一さん(萩市社会福祉協議会 相談支援課課長)

「山口市における地域課題と課題への取り組みについて」

中田 聖大さん(山口市社会福祉協議会 主査・専門員)

(3) パネルディスカッション

パネリスト: 田屋 善一さん

中田 聖大さん

今井 友乃さん

伊藤 孝司さん(萩・長門成年後見支援センター「てとて」)

コーディネーター: 澄田 明子さん

(出雲市社会福祉協議会 いずも権利擁護センター)

コメンテーター: 佐藤 彰一さん(全国権利擁護支援ネットワーク顧問/弁護士)

山口 正之さん

5. 報 告

「身寄りのない方を 地域で支えるための 地域づくり」をテーマに、基調講演では「身元保証はほんとうに必要なか？」と題して、いま起こっている身元保証の問題・課題をわかりやすくお話いただき、法律的な視点も含めて理解をすることが出来ました。

またパネルディスカッションでは、実際の対応事例や直面している課題を登壇いただいていた皆さんのそれぞれの地域に置き換えた際に、この課題をどう考え、どう整理していくのかを福祉的な面と法律的な視点で意見交換をしながら、支援のあり方を会場の皆さんと一緒に考えていくことも出来ました。

長年、身元保証が家族や身内による支援を前提とする仕組みで行われてきたなかで、身元保証人に求められるすべての機能を代替する仕組みは出来ないにしろ、既存の制度やサービスを組み合わせながら、それぞれの地域にあった機能を展開していくことが今、必要になってきていると思います。

この研修を通して、頼れる家族や親族等がいてもいなくても、地域とつながりの中であんしんして暮らしていくことが可能な地域づくりをしていくために、地域全体で意識を高めていくことが重要であるとともに、当事者の方も一緒になって地域活動への参加をしてもらえるような取り組みもしながら地域づくりをしていくことが必要であることも学ぶことが出来ました。

この研修に参加していただいた皆さんがそれぞれに感じたものや学んだことを、今後の権利擁護支援の業務に活かしていただけたらと思います。

作成者：澄田明子

意思決定支援を含む権利擁護を進めるための中核機関の役割と実務研修
 ～身寄りのない方を地域で支えるための地域づくり～
 （２０２４年１２月３日・山口県萩市）アンケート集計結果

回答数：２８

１）（Ａ）お住まいまたは所属先の所在地

山口県 (28名)	萩市（10名）	山口市（6名）
	長門市（8名）	宇部市（4名）

（Ｂ）職種（所属） ※複数回答可

１、自治体	6名
２、社会福祉協議会	9名
３、福祉職（高齢）	5名
４、福祉職（障害）	6名
５、法律職	0名
６、会員団体	0名
７、その他	5名（学生２名、社会福祉士会、障害者の保護者、自営業 各１名）

２）本研修は何でお知りになりましたか？ ※複数回答可

１、チラシ	7名
２、ホームページ	0名
３、職場・関係機関	17名
４、友人・知人	1名
５、その他	3名（広報、地位諸施設からの情報提供、ぱあとなあ山口より 各１名）

３）基調講演『身元保証人はほんとうに必要か？』についてのご意見・ご感想

１、大変良かった	20名
２、良かった	8名
３、よく分からなかった	0名

１、「大変良かった」

・身寄りのない方や身寄りがあっても家族との関係が良くなく、家庭内での解決が困難な方が多い。今日の研修で本当に何が必要なのか、行政に求められている支援は何なのか、改めて考える時間となった。

- ・障害の分野では、本人の判断能力や意思決定支援、入院時の見守り体制づくり、親亡き後の問題があると感じている。また、貧困の問題と重なる例も多くあるので地域に担える力があるのかは疑問がある。→複数の社会の仕組みを変える、その後のリスク検討受け入れる側として身元保証が必要と思う対象を整理してみたいと思った。（現状は、意思決定、貧困、医療）
- ・「身寄りがない」＝「後見人」のイメージが強かったので、今日の基調講演はおつても勉強になりました。身元が必要な理由や内容によっては、役割分担することで解決できることもあるかもしれないと思いました。その地域に合った社会資源を利用し、チームで問題解決に繋げられれば良いなと思います。講演を拝聴させていただき、「身元保証人は本当にいるのか？」疑問に思うようになりました。
- ・今井さんのお話は大変勉強になり、一日コースでお話を伺いたいと思いました。成年後見制度に頼らなくても暮らしあんしんサポート事業が補える部分が多く、本人の権利擁護が実現していくように思いました。
- ・内容が濃く、お話も面白かったです。もっと長めに聞きたかったです。
- ・いつもながら分かりやすいお話をありがとうございました。
- ・身寄りのない方が増えており、支援者側としてどのように支援をするのか非常に悩ましいところである。保証人は本来必要ないが、病院施設のスタンスとして必要となることも分かり、どう支援していくかチームで関わっていくことが大事だと学ぶことができた。地域にどう根差して作っていくかも課題だと感じた。
- ・身寄り問題はスタンダードだと聞いてなるほどなと実感した。
- ・そもそも身元保証人はいるのか？というところから考えることができて良かった。まだ実際には身元保証を求められることが多いが…一つの切り口にできると感じた。
- ・権利擁護と権利擁護支援の違いを知ることができて良かった。自分が関わっているケースでも身元保証人が必要と病院から言われたこともあったため、非常に興味深い内容であった。
- ・魚沼のガイドラインをはじめ、それぞれの地域において身寄りのない人の課題について議論していくことがまず必要になると考えました。
地域づくりの手法について様々な機関の協力が必要になると改めて思いました。

2、「良かった」

- ・他県他市の取り組みを紹介して頂き、大変勉強になりました。
- ・具体的な事例をもっとお聞きしたかったです。時系列で。
法で身寄りのない方が入院することは本来可能ということを知らなかったのが、勉強になりました。

- ・「身寄りがない」と言い、相談に来る人が、子供がおらず甥姪がいる。その方とは、年 1 回の割合で会う、電話する方でも「身寄りがない」と言う。本人が身寄りがないと言えないのかもしれないが、どこまで身寄りがないと言えるか線引きが難しいと感じる。
- ・我が家は 60 代夫婦と成人した重度知的障害の子だ。先日、夫が入院することになり、私以外に生計を別にする保証人 1 名とあり、困ってしまいました。我が家は兄弟が遠方に 1 軒、身近には高齢の叔父夫婦のみ。結局私だけの記入で入院はできましたが、もし先々私が入院となったときはどうなるのかと不安になりました。身元保証人の代わりとなるシステムが欲しいものだとつくづく感じました。ちなみに、連絡先だけはどうしてももう一軒書いてくれということで、高齢の叔父の電話番号を書かせてもらいました。昔と違って近隣に親類縁者のいる家庭は少ないと思います。
- ・権利擁護支援 自分で決めることを応援するという言葉が印象に残った。

4) 実践報告についてのご意見・ご感想

1、大変良かった	18名
2、良かった	10名
3、よく分からなかった	0名

※無回答 1名

1、「大変良かった」

- ・NPO 法人の素の考え、思いが伝わり、参考となった。
- ・愛知県知多地域の説明が大変良かった。
- ・先人たちのノウハウを聞かせて頂き、このような事業がもっと広がると良いと思いました。
- ・身元保証人は要らない、山口先生の話をもっと施設・病院側に伝えていただきた
- ・自分で意思決定できない子がいるので、自分の老後、死後及び一人になってからの子の終末までの生活…と片づけたいことはたくさんあるのですが、そうは言っても全部生きている間にはできません。(いきなり成年後見はしんどいです。その手前にいろいろあると安心です。) 身寄りを頼れる時代は終わったので、身寄りはいないが当たり前の状態でも安心して生きられる制度が望まれます。でも何年おきかに講演等で学習しますが、少しずつ良くなっているという手応えはあります。愛知はいいなあ。利用したい側としては困りごとをどんどん行政、社協に発信していかなくてはいけないと感じました。
- ・他自治体の取り組みについて山口県でも取り入れていけると良いと思った。今後の支援や取り組みの参考にしたいと感じた。
- ・各地域の取り組みについて知ることができた。
- ・他の市町での状況やどのように対応されているのかを知る機会となり、非常に良かった。

身寄りがない人ほど、“私は大丈夫。私は誰にも迷惑かけん。そのままにしてくれ”と言われるので、どう認識を変えてもらうのか地域で支えていくのか難しさも感じられた。

- ・各々の立場の違はあれど、其々が持論を展開され、勉強になった。もう少し時間があると良かったかな。
- ・今井さんの実践発表は先進的な取り組みで参考になった。もっと詳しく知りたいとも思った。
- ・先進地である知多地域の取り組み、萩市、山口市それぞれの地域で作り上げている事業について詳しく知ることができました。
- ・萩市社協の「自立生活安心サポート事業」は、長門市でも取り組みがあると良いと感じた。

2、「良かった」

- ・事業所の動きがよく理解できた。
- ・今井さんの講演は実状に則ったお話でうなずく場面が多かった、分かりやすかった。
- ・それぞれの地域によって NPO 法人が活発だったり、社協が独自のシステムで行っている等違いがかなりあると感じました。

知多市で起きている課題を地域に発信するためにシンポジウムをするという考えがなるほど、と思った。

- ・他地域の状況を知れるのは良かった。
保証協会がビジネスになっていることに驚いた。
- ・地域によってそれぞれの特性や地域の状況によって取り組み方や課題が違っていた。社協の取り組みも市町によって違っていた。他県他市の話が聞けて良かったです。

5) パネルディスカッションについてのご意見・ご感想

1、大変良かった	17名
2、良かった	11名
3、よく分からなかった	0名

1、「大変良かった」

- ・身寄りに頼らない社会を作るとは、難しいと思うが、市・社協等の関係機関、地域住民と連携・協力して地域全体でそうした社会づくりを目指せたらと思う。
- ・事例を踏まえ、早期にケースを把握し、その人の声を聴いていくことが何よりの権利擁護の一步になると思いました。また、相談させてください。
- ・身寄りに頼らなくても生きていける社会という言葉が印象的でした。

- ・病院（医療機関）や施設に身元保証人がいない人は受け入れができないと言われ、断られた場合の対処方法についてよく知りたいと思いました。お互いが気持ちの悪くならない平和的な解決方法があればご教示いただければ幸いです。
- ・非常に分かりやすかった。
- ・“息子（家族）に課題がある”という事例は本当に多いと思う、どこの地域でも解決は困難。

2、「良かった」

- ・1つの事例に対しての各パネラーさんのシュミレーションに各々違いがあって興味深かった。地域政党もあると思います。
今井さんのお話の支援側の人“最後の砦が自分では苦しい”と言われたという件、共感しました。利用する側もお一人に頼るのは心苦しいです。また、100歳まで生きたら身元保証人なんていない！は本当にそう。みんなが孫やひ孫と住んでるわけじゃないです。究極、委託金を払っておくので、私と子が死んだらお墓に入れて家をしょぶんしてくれたら…。相談に行くと、こんなのうちに来ることじゃないって言われたら辛いなあ。どこに何を聞けばいいのかも難しいところです。
- ・身寄りに頼らない社会を作るという言葉が説得力がありました。
- ・社会システム（家族システム）が変わっていない状況で、なかなか話・テーマが噛み合わないと感じた。佐藤先生の話で腑に落ちた、ありがとうございました。
- ・身元保証人は必要なのか？の答えが聞けたと思います。身寄りに頼らない社会づくりが今後の課題なのだと思います。
- ・制度に乗らない方の受け皿がもっと増えると良いと感じた。
- ・様々な立場の方の意見を聞くことができて良かったです。思いがけない意見もあり、参考になりました。

Ⅱ、検討委員会

1、委員会概要

【開催日時・場所】

	日時	開催場所
第1回	5月11日 15:00～17:00	自団体事務所 (千葉県船橋市)・ オンライン併用
第2回	7月27日 15:00～17:00	
第3回	11月16日 15:00～17:00	
第4回	1月11日 15:00～17:00	

【委員】

氏名	所属
福島 健太	特定非営利活動法人 PAS ネット
山口 正之	一般社団法人 萩・長門成年後見センター
田邊 寿	社会福祉法人 伊賀市社会福祉協議会
今井 友乃	特定非営利活動法人 知多地域権利擁護支援センター
駒田 拓朗	社会福祉法人 京極町社会福祉協議会
小野寺 幸司	特定非営利活動法人 カシオペア権利擁護支援センター
佐藤 正幸	社会福祉法人 千葉市社会福祉協議会
佐藤 直樹	社会福祉法人 魚沼市社会福祉協議会
永井 泰裕	一般社団法人 権利擁護センターみらい
山田 隆司	特定非営利活動法人 東濃成年後見センター
佐藤 彰一	特定非営利活動法人 PAC ガーディアンズ

【事務局】

氏名	所属
立石 絢子	一般社団法人 全国権利擁護支援ネットワーク

2. 委員会報告

日本財団助成事業

「意思決定支援を含む権利擁護を進めるための中核機関の役割と実務」

研修開催事業 検討委員会（第1回） 報告書

- ・開催日時： 2024年5月11日（土） 15時より
- ・場所： 自団体事務所・オンライン（zoom）ハイブリッド
- ・出席者： 福島委員、山口委員、田邊委員、桐高委員、駒田委員、佐藤（正）委員、永井委員、小野寺委員、山田委員、佐藤先生 今井委員、事務局立石

1] 検討委員会日程について

今後の検討委員会の日程について確認された。

第2回 7月 27日

第3回 11月 16日

第4回 1月 11日

いずれも自団体事務所またはオンラインにて、15時より

2] 事業内容の確認

開催方法や取り扱うテーマなど、現地の要望に合わせて柔軟に対応していく。

1、研修事業開催候補候補とブロック内の現況報告のまとめ

①北海道

時期・会場：検討中

開催方法：ハイブリッド

内容：身寄り問題、身元保証について

②北信越

6/12 ブロック交流会で内容等検討

③中国四国

萩市内で開催予定

④近畿ブロック

日程等検討中

これ以外に研修開催希望があればオンライン開催で対応。

2、研修開催地決定に向けて

- ・次回検討委員会までにブロック内と事務局で検討を進める。

- ・必要に応じて委員、候補地団体とのオンライン会議を行う。
- ・開催日時、会場、内容と講師を早めに決定していくために、委員に働きかける。

3、現地事務局との打ち合わせ

- ・基本的に各団体との打ち合わせはオンラインで行う。

4、ブロック交流会について

- ・地域での（研修内容等の）ニーズの把握、ネットワーク機能の強化を目的とし、各ブロックで交流会を開催。

オンラインをメインとして準備を行うが、各ブロック内での要望があればリアル開催も検討。

次回、検討委員会で時期の確認を行う。

全ブロックで開催できるよう、日程調整等を事務局で主導して行う。

5、「日常生活自立支援事業」普及の実態調査

- ・昨年とプロジェクトメンバーは一緒
- ・伊東かおりさんは、体調不良のため、不参加
- ・国の動向にあっているため、今年も引き続き続行。

日本財団助成事業

「意思決定支援を含む権利擁護を進めるための中核機関の役割と実務」

研修開催事業 検討委員会（第2回） 報告書

- ・開催日時： 2024年 7月27日（土） 15時より
- ・場所： 自団体事務所・オンライン併用
- ・出席者： 福島委員、山口委員、田邊委員、桐高委員、佐藤（正）委員、駒田委員、小野寺委員、佐藤（直）委員、永井委員、山田委員、佐藤委員 今井委員
事務局 立石

1、研修事業決定開催地

全4か所開催地、事務局決定済

ブロック	時期・日程	進捗状況・現地事務局（担当者）	開催形式
北海道	10月31日 午後	函館市で開催予定。 「単身者・身寄りのない方への権利擁護支援を考える」 講師に佐藤先生、山口先生、窪田良弘さん（徳風草）、湯浅弥さん（小呂野）、今井さん	ハイブリッド
北信越	11月22日 午後	上越市社会福祉協議会が事務局。 上越市内で開催予定、基調講演に上山先生	リアル
近畿	11月27日 午後	山口先生「身寄り問題と権利擁護」 佐藤先生（パネルディスカッションコーディネーター） 金銭管理をテーマにする。 （甲賀市と共催）	リアル
中国四国	12月4日 午後	萩市で開催予定 基調講演『身寄り問題に関する論点整理（仮）』 山口先生 実践報告とパネルディスカッション（登壇者候補） ・山口市の簡易的金銭管理モデル事業について ・萩市の日自の取り組み（三障害を対象） ・魚沼市の身寄り問題の取り組み（魚沼市社協・佐藤さん） ・知多	リアル

内容については、現地事務局、ブロック内からの要望を集めて柔軟に選定していきたい。

- ・講義（基調講演）

『権利擁護支援の基本』、『中核機関の役割』

『身寄り問題に関して』、『金銭管理』、『法人運営のヒント』

講義講師（候補）：佐藤彰一さん、福島健太さん、山口正之さん、芝田淳さん

- ・実践報告

実際に中核機関の職員の方から実務や課題についてお話しいただく。

テーマに沿って先進地域で活動している方の実践について

2、ブロック交流会の開催について

各ブロックで引き続き時期等の検討を行う。

基本的にはオンライン開催。ブロック内での要望があれば、リアル開催も検討。

複数回の開催も要望があれば行っていく。

ブロック内の連絡にはブロックメーリングリストを活用。

現在の状況

北信越	6月12日（水）13：30～ 済
九州沖縄	8月23日（金）16：00～17：30 リアル開催予定 交流会のほかに、全国権利擁護支援ネットワークの説明、 ぜんち共済からの保険の説明の時間を設ける。

他ブロックは、検討中。

3、進捗状況

- ・全ブロック現地事務局団体は決定。
- ・今年度は4か所中3か所でリアル開催。
- ・日時、研修内容から講師の日程調整、場所などを検討している段階だが、決定しているところも多く、順調に準備を進めていってもらえているように感じる。
- ・現地からの要望で内容が多岐に亘っていて、中核機関の役割の大きさが感じられる。

4、「日常生活自立支援事業」普及の実態調査

- ・8月から昨年のように月に1回のプロジェクト会議を開催予定
- ・ヒアリング対象を支援員、事業を使ってる本人から聞く
- ・ヒアリングはリアルとオンラインと両方
- ・対象社協の選定

日本財団助成事業

「意思決定支援を含む権利擁護を進めるための中核機関の役割と実務」

開催事業 検討委員会（第3回） 報告書

- ・開催日時： 2024年 11月16日（土） 15時
- ・場所： 自団体事務所・オンライン併用
- ・出席者： 福島委員、山口委員、田邊委員、桐高委員、佐藤（彰）委員、
今井委員、小野寺委員、佐藤（正）委員、永井委員、立石

1、研修会開催日程

ブロック	現地事務局団体	開催日時
北海道	京極町社会福祉協議会	10月31日（木） 函館市 ハイブリッド、開催済
北信越	上越市社会福祉協議会（新潟県）	11月22日（金） 上越市
近畿	ぱんじー（滋賀県甲賀市）	11月27日（水） 甲賀市
中国四国	萩・長門成年後見センター（山口県）	12月4日（水） 萩市

2、各研修会の内容と講師

日程	ブロック	研修内容	講師
10月31日	北海道	基調講演 『権利擁護支援と国の動向』	佐藤 彰一さん (全国権利擁護支援ネットワーク顧問)
		『渡島圏域の権利擁護支援の現状と取り組み』	窪田 良弘さん（徳風草） 湯浅 弥さん（小呂野）
		鼎談 『単身者・身寄りのない方への支援の実情と今後の展望』	山口 正之さん (全国権利擁護支援ネットワーク共同代表) 今井 友乃さん (全国権利擁護支援ネットワーク事務局長)
11月22日	北信越	基調講演『成年後見制度の動向と中核機関の役割』	上山 泰さん (新潟大学法学部教授)
		パネルディスカッション 『地域の権利擁護支援の中核であるために』	長岡 敏明さん（上越市社会福祉協議会） 竹之内 拓馬さん（長岡市社会福祉協議会） 今井 友乃さん（知多地域権利擁護支援センター） コーディネーター：寺口 祐司さん (新潟県社会福祉協議会) コメンテーター：上山 泰さん

11月27日	近畿	基調講演『身寄りのない方の支援を地域で支える』	山口 正之さん
		シンポジウム 『身寄り問題の現場から』	廣田 岳尚さん（慈恵会 理事長） 大津 裕昭さん（名古屋市社会福祉協議会） 桐高 とよみさん（ぱんじー 所長） コーディネーター：山口 正之さん コメンテーター：佐藤 彰一さん
12月4日	中国四国	基調講演『身元保証人はほんとうに必要か？』	山口 正之さん
		実践報告 ・「親族がいないあるいは協力が得られない方への『くらしあんしんサポート事業』の取り組み」 ・「萩市社協の取り組み～自立生活安心サポート事業など～」 ・「山口市における地域課題と課題への取り組みについて」	今井 友乃さん 田屋 善一さん （萩市社会福祉協議会 相談支援課課長） 中田 聖大さん （山口市社会福祉協議会 主査・専門員）
		パネルディスカッション	パネリスト：田屋 善一さん 中田 聖大さん 今井 友乃さん コーディネーター：澄田 明子さん （出雲市社会福祉協議会 いずも権利擁護センター） コメンテーター：佐藤 彰一さん 山口 正之さん

3、ブロック交流会について

ブロック	日時等
北信越	6月7日（水）13：30～ 11月2日の研修会終了後、リアル交流会実施
九州沖縄	8月23日（金）16：00～17：30 リアル開催 会員交流の他、全国権利擁護支援ネットワークの説明、 ぜんち共済より保険の説明を行った。

全ブロックオンラインで開催予定

北信越、九州沖縄ブロックは終了。

オンラインが多いため、気軽に参加してもらえている印象。

その他ブロックは日時検討中となっているため、ブロック内の日程等の調整を促していきたい。

4、「日常生活自立支援事業」普及の実態調査

- ・ 8月から月1回のオンラインプロジェクト会議
- ・ 対象者、社協、生活支援員、日自利用者の3者とする
- ・ 苫小牧の調査報告

日本財団助成事業「成年後見制度利用促進法における中核機関の役割と実務」開催事業 検討委員会（第4回） 報告書

- ・開催日時： 2025年 1月11日（土） 15時
- ・場所： 自団体事務所・オンライン併用
- ・出席者： 福島委員、山口委員、田邊委員、桐高委員、佐藤（彰）委員、今井委員、佐藤（正）委員、永井委員、佐藤（直）委員、立石

終了した研修会の振り返りを行った。

また、ブロック交流会について既に終了しているブロックからの報告とこの後予定されているブロックの進捗の確認を行った。

1、研修事業参加人数（※全日程終了）

	日程	ブロック	受講人数
1	10月31日	北海道	39名
2	11月22日	北信越	90名
3	11月27日	近畿	106名
4	12月4日	中国四国	31名

2、ブロック交流会日程

北信越	6月12日（水）13：30～15：00
九州沖縄	8月23日（金）16：00～17：30

他ブロックの日程検討を事務局主導で促す。

4、「日常生活自立支援事業」普及の実態調査

- ・リアル ヒアリングは伊賀市社協、二戸市社協を予定
- ・オンラインヒアリングを、世田谷区社協、薩摩川内市社協、半田市社協、四日市社協を予定
- ・利用者はいいことしか言わないかもしれない
- ・生活支援員がおもしろい

3、全日程を終えての振り返り

1、開催後の各地の振り返り

それぞれの回のワンポイントの振り返りの特徴を記載した。

<10月31日・北海道函館市>

・意思決定支援のことは、考える機会があまりなかったようである。いい機会・チャンスになったようである。研修を受ける機会が少ない参加者が多いような気がする。話の事例を客観的に聞くのが難しいようである。

<11月22日・新潟県上越市（北信越ブロック）>

・基調講演が成年後見制度の動向を分かり易く説明してもらえ参加者の評判も良かった。コーディネーターの県社協の方が、大変上手に取り回してもらえました。上越圏域の参加者が多く興味あるテーマだと思えた。

<11月27日・近畿ブロック（滋賀県湖南市）>

・この研修に関して、関与する行政の対応が今後の、この地域の権利擁護の推進に役に立つように感じられた。いい効果を生んだようである。

<12月4日・山口県萩市>

・基調講演が、皆にこの問題を考えさせられるいい投げかけになってる。地域の参加者がこのテーマを一緒に考えていく姿勢が見られた。地域にいいきっかけになったようである。

2、各地の参加人数とアンケートでの満足度のまとめ

	日程	ブロック	受講人数	アンケート充足率 (回答数)
1	10月31日	北海道	39名	94.4%(18)
2	11月22日	北信越	90名	96.1%(76)
3	11月27日	近畿	106名	99.4%(78)
4	12月4日	中国四国	31名	100%(28)

各回、満足度は95%を超えている。
参加者の期待に応えられている研修内容になっている。
実態に即した内容で実施されているからだと考えられる。

3、ブロック交流会について

北海道	3月27日（木）13：30～15：00
東北	3月18日（火）13：30～15：00
関東	3月29日（土）10：00～11：30
北信越	6月12日（水）13：30～15：00
中部東海	3月26日（水）17：00～18：30
近畿	3月5日（水）18：00～19：30
中国四国	3月25日（火）14：00～16：00
九州沖縄	8月23日（金）16：00～17：30

全日程終了

- ・「日常生活自立支援事業」普及の実態調査
調査資料を別に添付する。